



平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業
推進校実施報告書

- 1 学校名 : 菊陽町立菊陽中部小学校
- 2 実施日時 : 2017 (平成 29) 年 1 月 17 日 (火)
- 3 対象 : 4~6 年生 400 名
- 4 派遣パラリンピアン : 副島正純さん (車いすマラソン アテネパラリンピック※4×400m リレーにて銅メダル獲得、北京パラリンピック、ロンドンパラリンピック、リオデジャネイロパラリンピック出場)
- 5 授業内容 : 講演

2017 (平成 29) 年 1 月 17 日に菊陽町立菊陽中部小学校にて、車いすマラソン選手としてパラリンピックに 4 大会 (アテネ : 2004 年、北京 : 2008 年、ロンドン : 2012 年、リオデジャネイロ : 2016 年) 連続出場された副島正純さんによる講演が行われました。

講演ではまず、副島さんが 23 歳のときに仕事に鉄板落下事故に遭い、脊椎損傷によって車いす生活になったことを話されました。それまでと生活が一変し、「この先どうやって生きていけばいいのか」と絶望する日々が続いたそうですが、母親の「あきらめるな」という言葉によって障がい者として生きていくことを受け入れたということでした。そして、入院中に障がい者スポーツのことを知って車いすマラソンに取り組みられるようになり、2000 (平成 12) 年のシドニーパラリンピックで仲間がメダルを獲得したことに触発され、自らもパラリンピックを目指すことになったということでした。練習時間を確保するために仕事を正社員からパートタイム勤務に変更し、どんなに苦しい練習も、パラリンピック出場の夢を叶えるために乗り越えていった結果、2004 (平成 16) 年に、念願であった (アテネ) パラリンピックに初めて出場し、4×400m リレーで銅メダルを獲得されました。その後も 3 大会連続してパラリンピックに出場されていますが、マラソンではまだメダルを獲得できていないことから、2020 (平成 32) 年の東京パラリンピックでメダルを獲得すること、そして亡き母親との約束である世界記録を出すことを目標に、今でも日々のトレーニングに励んでいるとのことでした。副島さんは「今はとにかく人生が楽しい」と述べられ、車いすマラソンから夢や目標をもらったこと、そして車いすマラソンで頑張ったことによって得られた自信が現在の支えになっていると語られました。最後に、「頑張ることで自分の人生が変わるし、それを楽しんでほしいと思います」と子供たちにメッセージを送られていました。

講演後は、副島さんが持参されたレース用の車いすに何人かの子供たちが試乗し、ハンドル操作の難しさを感じたりするなど、障がい者スポーツを知る良い機会になっていました。

6 授業の様子



自らの経験を語る副島さん



当時の事故の様子について



持参していただいたレース用の車いす



アドバイスもらいながら車いすを操作する児童



試乗の様子を見つめる子供たち



児童と記念撮影